

2022年9月9日(金)116:00～CRTスタジオで収録

岩手県・福島県で世界最先端の「国際リニアコライダー(ILC)」と 「福島国際研究教育機構」を考える

開倫塾

塾長 林明夫



Q：この夏、岩手県と福島県の被災地に視察に行ったそうですね

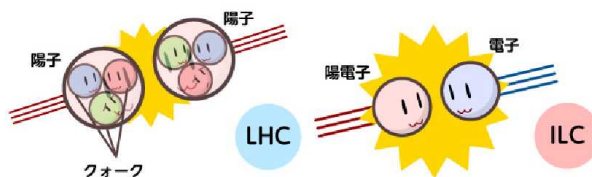
A：はい。20年近く幹事を務める「公益社団法人経済同友会・防災・震災復興委員会」の委員の一人として、7月28日・29日に岩手県(大船渡市・盛岡市)、9月1日・2日に福島県(郡山市・双葉町・大熊町・南相馬市・福島市)の被災地や企業、県庁、地元経済団体などを訪問、見学や意見交換をさせていただきました。委員長は、AGC 元会長で、産業技術総合研究所理事長の石村和彦氏、ごく数名での視察・訪問でした。

Q：一番参考になったのは何ですか

A：(1)岩手県での、「国際リニアコライダー(全長約20kmの地下・100mのトンネルの両端から電子と陽電子を加速して、正面衝突させ、ビッグバン状態を再現することによって素粒子と宇宙の謎を解明するもの。略称 ILC)」の全県あげでの推進運動です。

(2)コロナ禍前までは順調に計画が進んでいましたが、コロナ禍で審議会などの開催が遅れているようです。

(3)この「国際リニアコライダー(ILC)計画」は、世界初の大規模直線超電導加速器を用いた素粒子物理学の世界最先端施設です。国際共同科学プロジェクトとして世界各国が資金を分担して日本に建設しようとしているもので、東北、とりわけ岩手県にとってこんな有難いものはありません。これで、東北、とりわけ岩手県が世界トップレベルの素粒子研究の学問的中心の1つになるからです。



Q：福島は何がありますか

A：(1)「福島国際研究教育機構(令和5年4月設立予定)」があります。沖縄県にある OIST(沖縄科学技術大学院大学)の福島県版ともいえます。

(2)OIST の反省を踏まえ、「福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望」になるものとすると同時に、「我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引」し、「経済成長や国民生活の向上」に貢献する、「世界に冠たる『創造的復興の中核拠点』」を目指すものです。

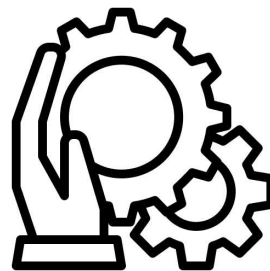
(3)①ロボット、②自動生産システムの農業、③水素エネルギーやネガティブエミッション技術、④放射線科学・創薬医療(新しい RI 医薬品によるがん治療)、放射線の産業利用(超大型 X 線 CT 装置、ものづくり DX)、⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

(4)福島県浪江町 JR 駅南に国が立地を決定したようです。

Q：すごい国家プロジェクトですね

A：(1)国も地元の県・自治体も、岩手県と福島県の被災地を一日も早くどうかしなければとの熱い思いで、本当に一所懸命取り組んでいるのがよくわかります。

(2)安倍元首相の遺言である「東北の復興なくして、日本の復興なし」
「福島の復興なくして、東北の復興なし」をどうか成し遂げようと、皆、真剣です。



Q：参考になった企業視察はありましたか

A：(1)岩手県では、7月29日の午前中に大船渡市の太平洋セメント(旧小野田セメント)を視察。大船渡工場は、3.11で7メートルの津波被害にあった6日後から組織的な復旧班をつくり、2か月後の5月9日から送電を再開。6月22日から「がれき処理」をスタートし、半年後の11月4日から「がれきのセメント処理」を開始。翌年、6月28日から「がれきのセメント資源化」を実用化。3.11の1年半後には、3市2町の「がれき」を「1日750トン」「セメント原料化」。押し寄せる津波から出た、目の前に積み上がった「がれき」を見て、セメントの資源化を思いつき、それを驚くほどの短期間で事業化しました。理科系の技術者の皆様の底力に心から感動しました。

(2)福島県では、9月2日の午前中に「ロボコム・アンド・エフエイコム南相馬工場」を視察。製造業DX、デジタルファクトリーロボット化プロジェクトの第一人者である天野眞也代表取締役社長から、「南相馬からロボット技術発信に向けた取り組み」と「地元企業や行政・大学などとの連携について」工場を視察しながらお話をお聞きしました。

- ①自動3次元測定で徹底した品質管理
- ②24時間稼働、全自動・無人加工工場でコスト削減
- ③最適スケジューリング生産で超納期短縮を実現

隣接する「ドローン試験飛行場」とともに南相馬のロボット分野を牽引しています。

(3)岩手県も福島県も、復興はようやく緒に就いたばかりといえます。特に全町避難を余儀なくされた福島県双葉町では、8月30日帰還困難区域のうち特定復興再生拠点区域(復興拠点)の避難指示が解除され、町面積の15%で居住が可能になったばかりです。「福島の復興なくして、東北の復興なし」を合言葉に、これからも、日本国民全員が、皆で、力を合わせたく考えます。



Q：放送をお聞きの皆様にお伝えしたいことがありますか

A：福島県双葉町にある「東日本大震災原子力災害伝承館」は、先生方や塾生・生徒・保護者の皆様にとりとても勉強になる施設です。郡山市にある産業技術総合研究所、福島再生可能エネルギー研究所や南相馬市のロボット工場・ドローン試験飛行場などを、組み合わせての「研修旅行」など、是非、ご計画ください。

